

VI 緑視率の状況

人間の視野に近い画角を想定して撮影された写真を用い、その中に占める樹木等の緑の面積占有率から算出される緑の量を緑視率という。

緑被率が視野外も含めた平面的な緑の量を測る尺度であるのに対し、緑視率では立面的に視野内に占める緑の量を対象とする。緑被率の低い地域でも、接道部など視野に入りやすい場所に公園樹や街路樹といった緑地が多く存在すれば、緑視率は高くなる。緑視率は緑の豊かさを実感する度合いを測るための指標といえる。

1. 調査地点の選定

調査地点は、調査区域にかけたメッシュ（網目 140m×140m）に近い道路の交差点とした。調査地点数は 212 点とし、図VI-1 にその位置と調査番号を示す。これは、第 5 次緑地実態調査（平成 7 年）から継続して調査している地点である。なお、特別区域には調査地点を設けていない。

2. 他区との比較

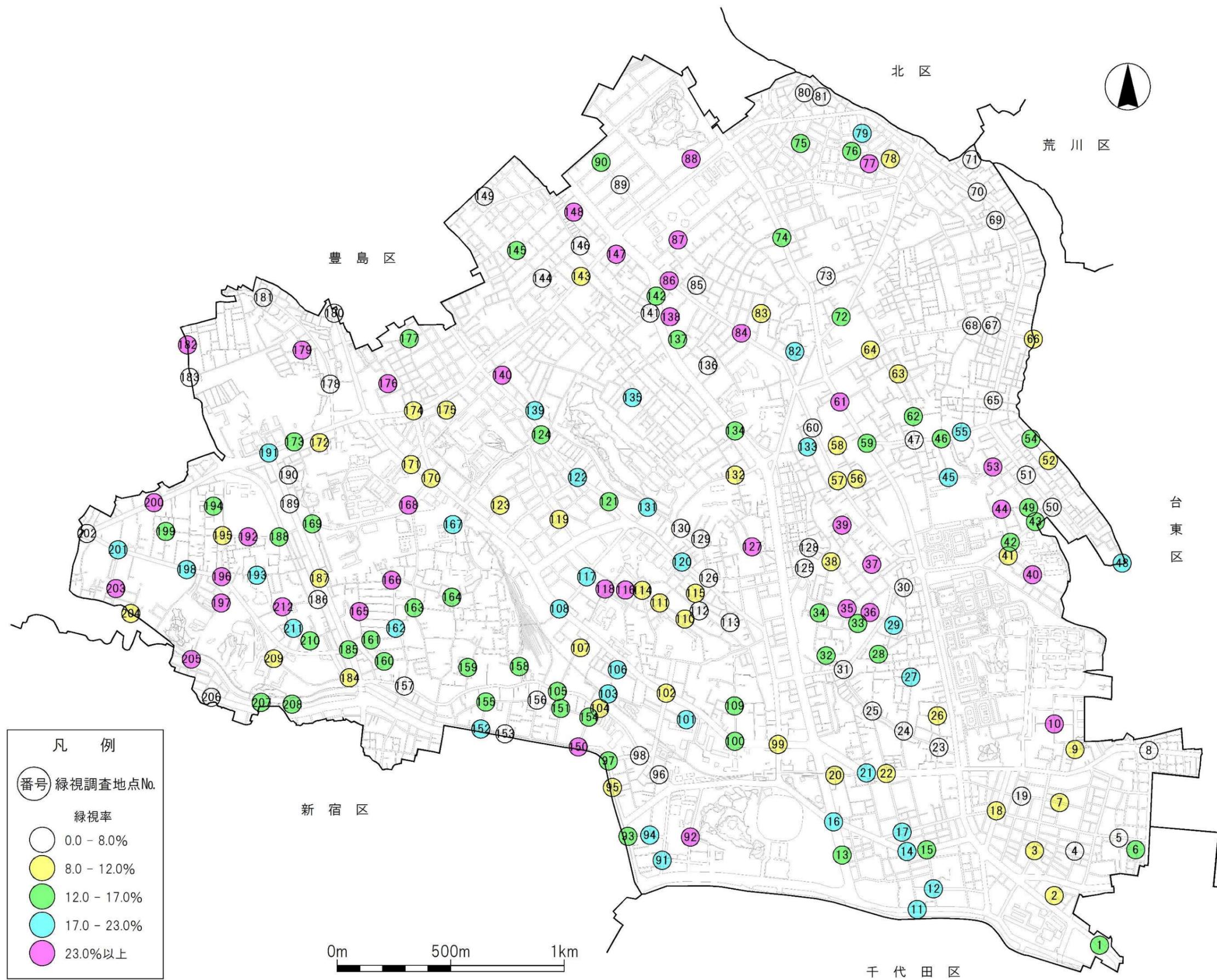
緑視率は緑の量を把握するための手法として用いられるが、比較的特殊な方法であり、まだ事例としては少なく、各区によって調査方法や調査地点が統一されていない。公園付近や街路樹、接道緑化が多い箇所では必然と緑視率が高い数値となる。

本区の緑視率の平均は 14.3% である。近年、調査している区が徐々に増えているものの、全体平均よりも緑視地点の効果をみる調査となっている傾向にあり、他区との比較が難しい状態である。周辺区との緑視率の比較を表VI-1 に示す。

表VI-1 周辺区との緑視率の比較（参考）

	緑視率 (%)	調査年度
文京区	14.3	令和5年
中央区	39.5	平成29年
北区	38.7	平成30年
練馬区	27.9	令和3年
渋谷区	24.7	令和4年
台東区	21.8	平成30年
杉並区	20.1	令和4年
港区	19.8	令和3年
墨田区	19.0	平成30年
江東区	17.2	令和4年
足立区	14.6	平成29年
新宿区	11.6	令和2年
大田区	11.2	平成30年

注：緑視率は、定点観測結果の平均値であり、区全体の状況を反映するものではない。また、他区では特別に決められた調査地点での緑視率のため、単純な比較はできない。



凡 例

○ 番号 緑視調査地点No.

緑視率

- 0.0 - 8.0%
- 8.0 - 12.0%
- 12.0 - 17.0%
- 17.0 - 23.0%
- 23.0%以上

図VI-1 緑視率の調査地点
- 137 -

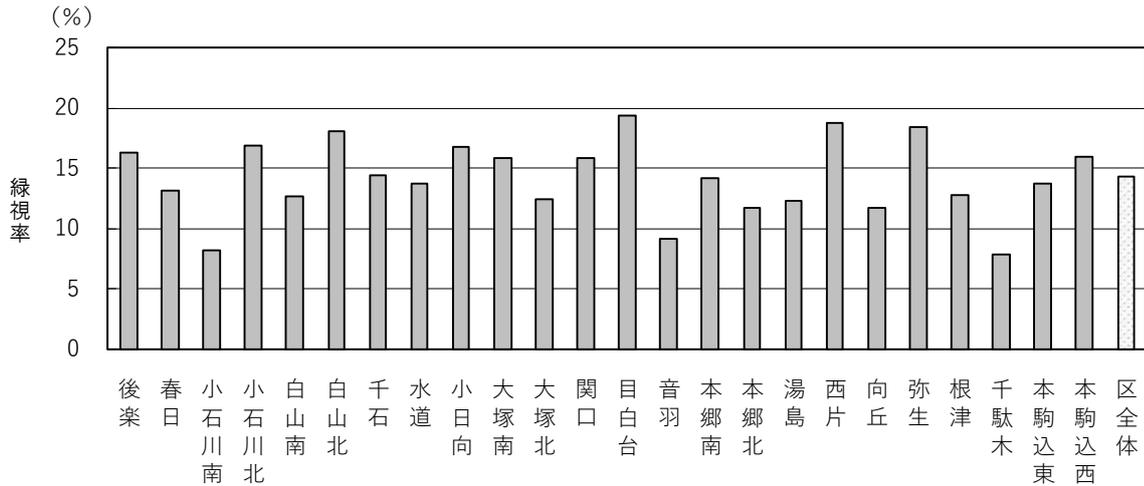
3. 緑視率の特徴

3-1. 区域別、町丁目別の緑視率

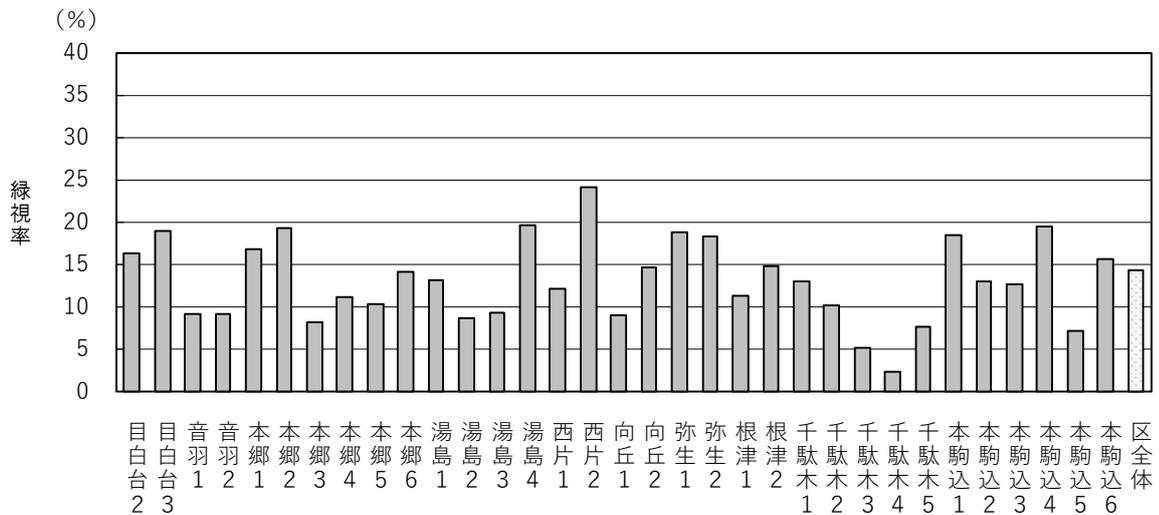
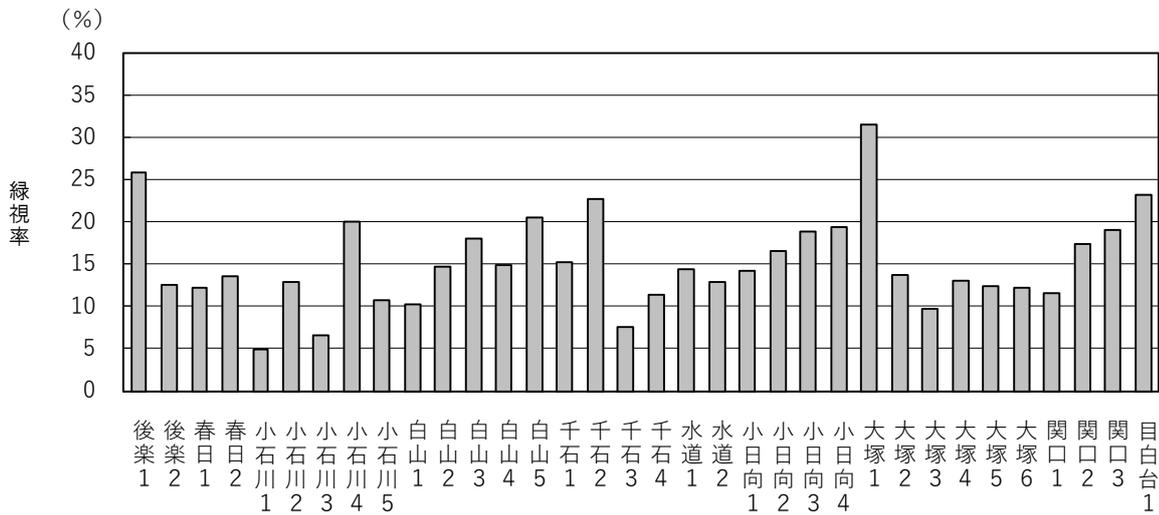
一般区域における区域別、町丁目別の緑視率の平均値を表VI-2、図VI-2、図VI-3に示す。また、区域別の緑視率分布図を図VI-4に示す。

表VI-2 緑視率の区域別町丁目別平均値

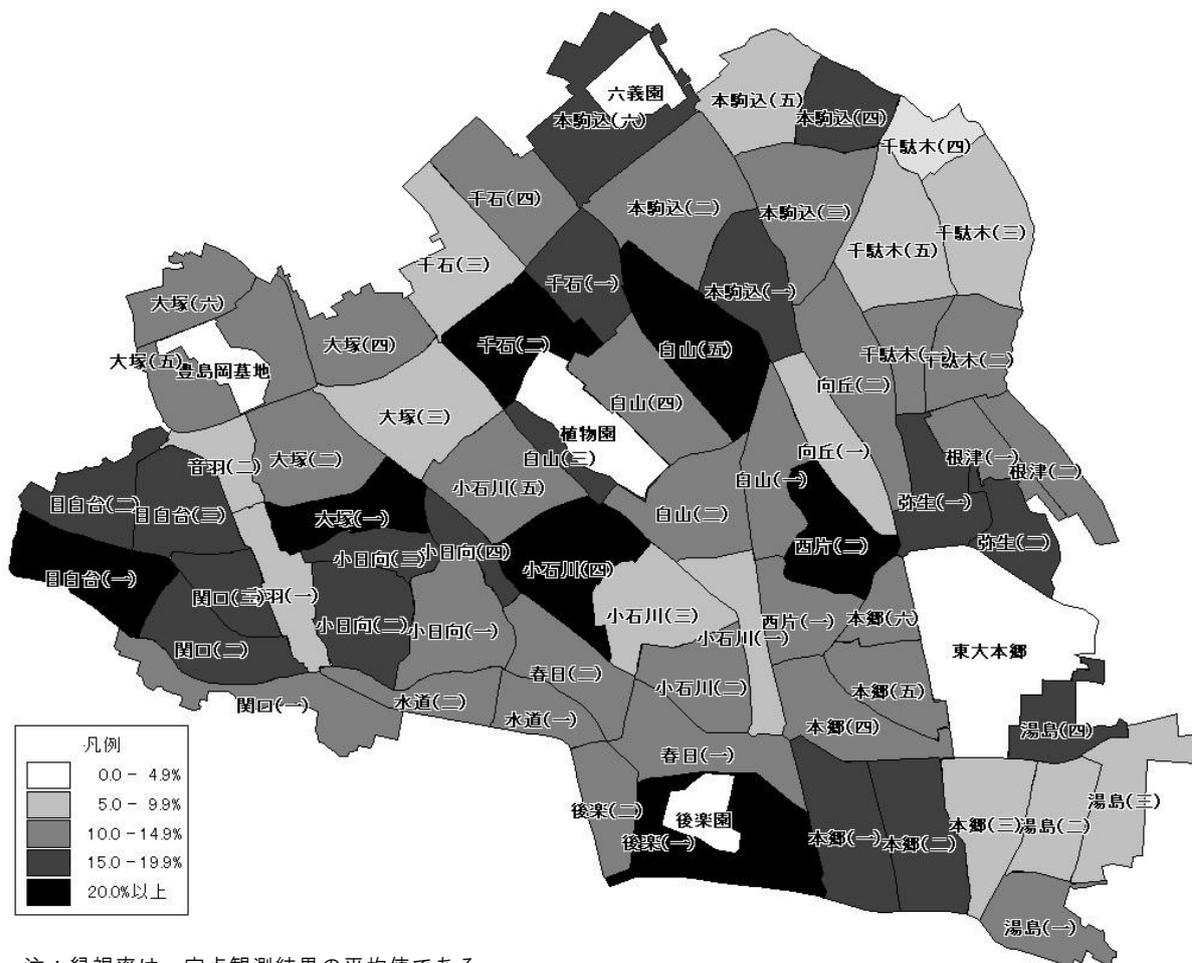
区域	町丁目	緑視率 (%)	区域	町丁目	緑視率 (%)
1 後楽	後楽 1	25.8	13 目白台	目白台 1	23.2
	後楽 2	12.5		目白台 2	16.3
		16.3		目白台 3	18.9
2 春日	春日 1	12.2			19.4
	春日 2	13.6	14 音羽	音羽 1	9.2
		13.2		音羽 2	9.2
3 小石川南	小石川 1	5.0			9.2
	小石川 2	12.9	15 本郷南	本郷 1	16.9
	小石川 3	6.6		本郷 2	19.3
		8.2		本郷 3	8.2
4 小石川北	小石川 4	20.0			14.2
	小石川 5	10.8	16 本郷北	本郷 4	11.1
		16.9		本郷 5	10.3
5 白山南	白山 1	10.2			14.1
	白山 2	14.6			11.7
6 白山北		12.7	17 湯島	湯島 1	13.2
	白山 3	18.0		湯島 2	8.6
	白山 4	14.9		湯島 3	9.4
	白山 5	20.5		湯島 4	19.6
		18.1			12.3
7 千石	千石 1	15.1	18 西片	西片 1	12.2
	千石 2	22.6		西片 2	24.0
	千石 3	7.6			18.8
	千石 4	11.4	19 向丘	向丘 1	9.0
	14.5	向丘 2		14.7	
8 水道	水道 1	14.3			11.8
	水道 2	12.9	20 弥生	弥生 1	18.8
	13.7	弥生 2		18.3	
9 小日向	小日向 1	14.2			18.4
	小日向 2	16.6	21 根津	根津 1	11.3
	小日向 3	18.8		根津 2	14.9
	小日向 4	19.3			12.8
10 大塚南		16.8	22 千駄木	千駄木 1	13.0
	大塚 1	31.5		千駄木 2	10.2
	大塚 2	13.8		千駄木 3	5.2
	大塚 3	9.7		千駄木 4	2.4
	15.9	千駄木 5		7.7	
11 大塚北		7.9			7.9
	大塚 4	13.0	23 本駒込東	本駒込 3	12.6
	大塚 5	12.3		本駒込 4	19.5
大塚 6	12.2	本駒込 5		7.1	
12 関口		12.5			13.7
	関口 1	11.5	24 本駒込西	本駒込 1	18.5
	関口 2	17.4		本駒込 2	12.9
	関口 3	19.1		本駒込 6	15.6
	15.8			16.0	
			区全体		14.3



図VI-2 区域別緑視率（平均値）



図VI-3 町丁目別緑視率（平均値）



注：緑視率は、定点観測結果の平均値である。
 特別区域には、調査地点を設定していない。

図VI-4 緑視率分布図

- 緑視率の高い区域（上位 5 位）：目白台、西片、弥生、白山北、小石川北
- 緑視率の低い区域（下位 5 位）：千駄木、小石川南、音羽、本郷北、向丘

区域別緑視率では、目白台、西片、弥生、白山北、小石川北の順で緑視率が高く、千駄木、小石川南、音羽、本郷北、向丘の順で低い緑視率となっている。緑視率のもっとも高い目白台（19.4%）ともっとも低い千駄木（7.9%）では 11.5 ポイントの開きがあり、区全体の緑視率（14.3%）に対して、それぞれ 5 ポイント以上の差が生じている。

目白台、西片は閑静な住宅地が広がり住宅の樹木が多いところである。弥生、白山北は公園、学校等施設のまとまった緑地に恵まれているところである。

一方、緑視率の低い千駄木、小石川南等は小規模住宅が狭隘道路を挟んで林立しており、緑化スペースが少ない事もあり前回からの大きな変動は見られなかった。

- 緑視率の高い町丁目：大塚 1 丁目、後楽 1 丁目、西片 2 丁目、目白台 1 丁目、千石 2 丁目
- 緑視率の低い町丁目：千駄木 4 丁目、小石川 1 丁目、千駄木 3 丁目、小石川 3 丁目、本駒込 5 丁目

町丁目別緑視率では、大塚 1 丁目、後楽 1 丁目、西片 2 丁目、目白台 1 丁目、千石 2 丁目の順で緑視率が高く、千駄木 4 丁目、小石川 1 丁目、千駄木 3 丁目、小石川 3 丁目、本駒込 5 丁目の順で緑視率が低い結果となった。

大塚 1 丁目（31.5%）や後楽 1 丁目（25.8%）は、区全体（14.3%）との比較でも突出して高く、大塚 1 丁目ともっとも低い千駄木 4 丁目（2.4%）の差は 29.1 ポイントの開きがある。

3-2. 土地利用と緑視率

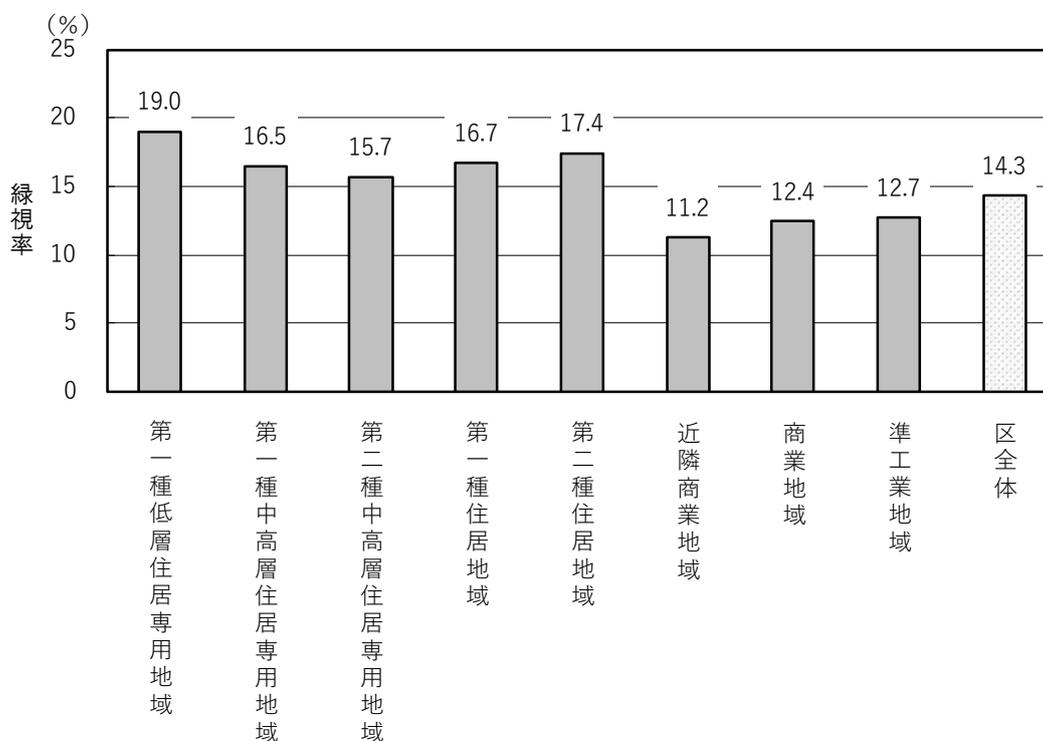
用途地域別の緑視率の平均値を表VI-3、図VI-5に示す。

第一種低層住居専用地域(19.0%)、第二種住居地域(17.4%)、第一種住居地域(16.7%)など住居系の用途地域で平均を上回る緑視率の箇所が集中している。

また平均を下回ったのは準工業地域(12.7%)、商業地域(12.4%)、近隣商業地域(11.2%)となっており、区全体の平均値を境に住居系地域とそれ以外とで分かれている。

表VI-3 緑視率の用途地域別平均値

用途地域	緑視率 (%)
第一種低層住居専用地域	19.0
第一種中高層住居専用地域	16.5
第二種中高層住居専用地域	15.7
第一種住居地域	16.7
第二種住居地域	17.4
近隣商業地域	11.2
商業地域	12.4
準工業地域	12.7
区全体	14.3



図VI-5 用途地域別緑視率 (平均値)

4. 緑視率の経年変化

平成 16 年、平成 24 年、平成 30 年、令和 5 年の調査における緑視率の経年変化について区域ごとに集計した結果を表VI-4、図VI-6に示す。

○ 平均緑視率の経年変化

平成 16 年	:	16.0%
平成 24 年	:	14.7%
平成 30 年	:	14.2%
令和 5 年	:	14.3%

令和 5 年の平均緑視率は、前回と比較して 0.1 ポイントの増加であり、前々回との比較では 0.4 ポイントの減少となっている。

区域別緑視率の前回との比較では、西片、湯島、後楽で 2 ポイント以上の減少がみられた。また、小日向、根津、弥生、大塚北で 2 ポイント以上の増加がみられた。減少した区域では、宅地内の樹木の伐採や、道路の形状変更による街路樹の撤去などが影響している。

一方、連続して減少している区域は、後楽、大塚南、目白台、湯島、千駄木であり、調査地点において、道路が狭く植栽するスペースがないことや、施設改修に伴う樹木の伐採などが緑視率の低下につながっていると推測される。

○ 緑視率が連続して増加している区域：春日、白山南、千石、水道、大塚北

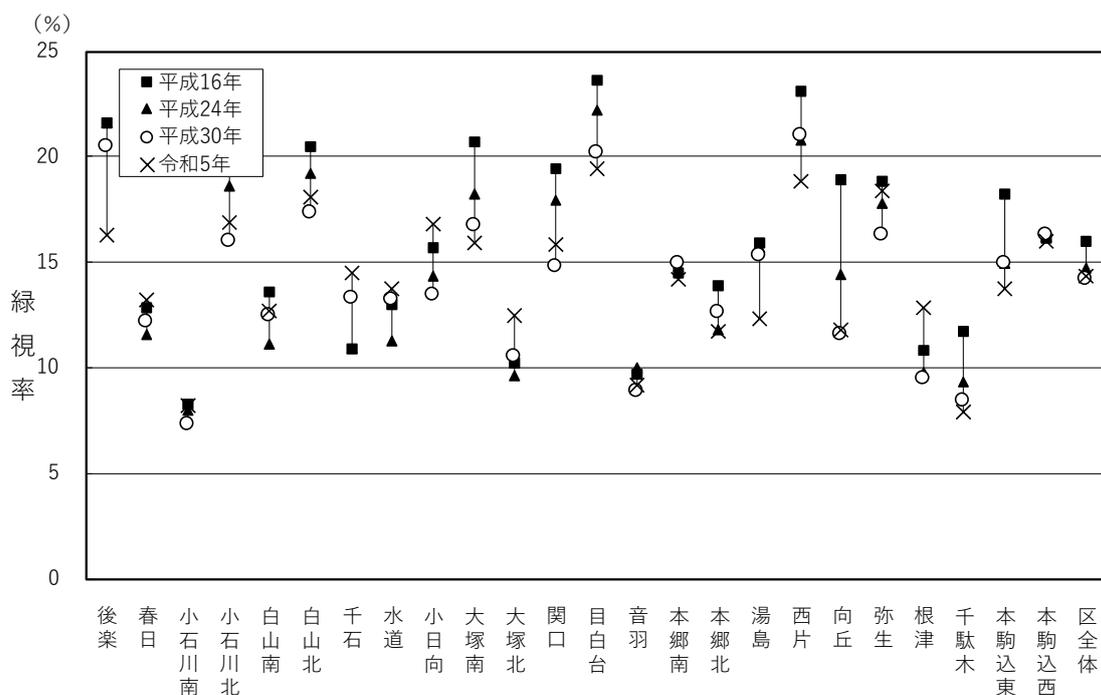
○ 緑視率が連続して減少している区域：後楽、大塚南、目白台、湯島、千駄木

表VI-4 区域別緑視率の経年変化

No.	区域	平成16年	平成24年	平成30年	令和5年	増減
1	後楽	21.6	21.6	20.5	16.3	-4.2
2	春日	12.8	11.6	12.2	13.2	1.0
3	小石川南	8.3	8.0	7.3	8.2	0.9
4	小石川北	20.0	18.6	16.0	16.9	0.9
5	白山南	13.6	11.1	12.5	12.7	0.2
6	白山北	20.5	19.2	17.3	18.1	0.8
7	千石	10.9	10.9	13.3	14.5	1.2
8	水道	13.0	11.3	13.2	13.7	0.5
9	小日向	15.7	14.3	13.4	16.8	3.4
10	大塚南	20.7	18.2	16.7	15.9	-0.8
11	大塚北	10.2	9.6	10.5	12.5	2.0
12	関口	19.4	17.9	14.8	15.8	1.0
13	目白台	23.6	22.2	20.2	19.4	-0.8
14	音羽	9.7	10.0	8.9	9.2	0.3
15	本郷南	14.5	14.8	14.9	14.2	-0.7
16	本郷北	13.9	11.8	12.6	11.7	-0.9
17	湯島	15.9	15.7	15.3	12.3	-3.0
18	西片	23.1	20.8	21.0	18.8	-2.2
19	向丘	18.9	14.4	11.6	11.8	0.2
20	弥生	18.8	17.8	16.3	18.4	2.1
21	根津	10.8	9.8	9.5	12.8	3.3
22	千駄木	11.7	9.3	8.4	7.9	-0.5
23	本駒込東	18.2	14.9	14.9	13.7	-1.2
24	本駒込西	16.1	16.2	16.3	16.0	-0.3
	区全体	16.0	14.7	14.2	14.3	0.1

注 1：緑視率は、定点観測結果の区域別平均値である。

2：増減は、平成30年と令和5年を比較。



注：緑視率は、定点観測結果の区域別平均値である。

図VI-6 区域別緑視率の経年変化

